

第4号様式（要項第6条関係）

2022年度 第2回 藤沢市立御所見中学校 学校運営協議会会議録

開催日時：2022年7月4日（月）15時00分～

場 所：御所見中学校 図書館

●参加者

中岡 正晴（御所見中学校 校長）
荒船 友樹（御所見中学校 教頭）
高畑 眞澄（御所見中学校 地域担当教諭）
須藤 和久（御所見市民センター長）
坂本 哲也（藤沢市社会福祉協議会CSW）
鈴木 理恵（元本校PTA本部役員 思春期保健相談士）
平賀 英子（御所見地区民生委員）
角田 宗夫（元中学校長 人権擁護）
鈴野 達也（御所見地区青少協会長 元本校PTA会長）
加藤 寛章（御所見中学校 PTA会長）
大井 秀幸（三者連携〈ふれあい共育ネットワーク〉会長 元本校PTA会長）

（傍聴者2名）

以上 欠席1名 13名出席

●次 第

1. 開 会

2. 議 題

- （1）地域団体等の活動内容を共有
- （2）学校運営や生徒を取り巻く現状や課題について
- （3）その他

●協議内容（議題）

【議題1】地域団体等の活動内容を共有

大井会長）三者連携代表として…

難しく考えず、御所見中学校を「良いコミュニティ」にしていきたい。

鈴木委員）思春期保険相談士の立場から…

「青少協広報誌」「卒業生激励会」等に携わりながら、地域の方々が集える「みんなの居場所づくり」を行っている。横の繋がりを大切に、大人も子どもも関わるようにしていきたい。

鈴木委員) 青少協の代表として…

「夏まつり」「ユースデイ」「おしごと王国」「卒業生激励会」等の地域事業を行っている。昨年度は「卒業生激励会」をコロナ禍において開催することができた。「パトロール」で子どもたちの見回りを続けていきたい。

坂本委員) CSWの代表として…

「なんでも相談を受ける」立場。相談を受けたら、一緒に考えるというスタンスで地域の方々と関わっている。こういったコミスクで学校地域との連携を図れることがありがたい。

加藤委員) PTA会長の代表として…

今の子どもたちは「挨拶をすれば、挨拶が返ってくる」とても平和だと思う。保護者1名参加で「体育祭」が実施できてよかった。予定している行事が無事行えるといいなと思う。PTAとして支えていきたい。

平賀委員) 民生委員の代表として…

「各家庭の見守り」を行っている。コロナ禍であまり見回りができなかったが徐々に機会を増やしていきたい。

須藤委員) 御所見センターの代表として…

過去2年間でできていなかったが、「御所見の文化祭」を開催予定している。中学校の文化部も発表の場として連携していけたらと思う。御所見小3の社会科見学を3年ぶりに行えた。状況をみながら、少しずつ活動を戻したい。

大井会長) 御所見地区三者連携の代表として…

三者連携の事業は数多くあり、中学校との間では「朝の声かけ運動」を行っている。今年度は御所見中がコミスクを開設しているが、今後は小学校にも広がっていく。周囲との連携を視野に入れて運営を考えていく必要がある。

荒船委員) 学校の代表として…

御所見中では「体育祭」を半日開催で実施。「修学旅行」は京都と奈良に2泊3日で実施。「文化祭」は1日開催ではなく、分散させて実施する予定。他にも生徒による活動として「クリーンキャンペーン」を体育祭のブロックごとに実施予定。「合唱コンクール」も感染症対策を踏まえた上で、海老名市文化会館にて実施予定。

【議題2】学校運営や生徒を取り巻く現状や課題について

中岡副会長) 御所見に根付いている地域文化を整理していきたい。学校は教員不足。超過勤務を解消できずにいる。活動の中止延期が多いが、むしろ対応に追われている。限られた人数の中でやりくりしているのが現状。例として、ソフトテニス部の募集停止がある。しかし、あと2~3は部活動継続がむずかしい状況。令和5年度から地域移行・委託予定がすすめられていくが、まだはっきりとしたビジョンを示せずにいる。

学校は「全体に関すること」と「個の対応」が求められるが、最近「個の対応」がたいへん増え、応じきれずにいる。

大井会長) マクロ的にみるのか、ミクロ的に見るのかということですね。

敷居を低くして、みんなが参加しやすいように準備していくといいと思います。過去、おやじの会が「ペンキ塗り」「庭園整備」をしてきた。これを1つにして「美化キャンペーン」としてはどうか

鈴木委員) 小学生に対しては体験会があるが、中学生は3年生激励会のみ。開催自体ができなくなった。何かしら実施したいが、学生自体が忙しいので時期の設定が難しい。何かしてあげたいので、意見がほしい。

大井会長) 有志で来てくれる中学生は本当によくやってくれる。大人の対応ができ、いきいきと活発に手伝ってくれる。責任のある体験をしてもらいたい。

鈴木委員) 「個の対応」について…

コロナが流行る前に御中学区で、不登校の親同士での情報交換を行った。子どもも辛い、支える保護者も辛い。同じ立場だからわかることがある。その後、約2ヶ月おきに実施してきた。子どもによって状況が違う。別室だったら登校できるのであれば、別室を長く利用できるように、教員だけでなく大人で対応はできないだろうか。団体の人たちで対応できたら良いのでは…

角田委員) もう一度、コミュニティスクールについて内容を確認したほうがいい。

大井会長) 思いつくことがたくさんあっても、実際に行うとなると難しい。先生たちが行うには難しいところを地域がサポートできればいい。

中岡副会長) 先ほどの不登校生を持つ保護者の会ですが、PTAが扱うには重すぎる場所があり、お互いに苦しくなってしまう。あまり限定せず、保護者と教職員が気軽に話ができる機会が持てたらと思います。「先生と語る会」をPTA主催で7月に実施予定。教職員と保護者が垣根を越え、テーマに沿って話し合いをします。「支援のボランティア団体」があるといいのですが…

鈴木委員) 先程の内容をこういう会で検討したい。片瀬も「片中カフェ」というものを実施している。カウンセラーの部屋をカフェとして利用している。こういった存在のニーズを感じた。別室登校を地域の大人で見守れたらいい。片中カフェが理想に一番近いかもしれない。

大井会長) 不登校より「引きこもり」が心配。すぐに鈴木委員の内容は、運営が厳しいし重いと思う。コミスクとしては、不登校生に限定して特化するものでなく、全員に関われるものから考えるべき。

角田委員) 不登校の子どもも心配だが、その保護者が心配。保護者が少しでもラクになっていくようにしてあげたい。保護者が子どもにらくに対応できるように。

中岡副会長) 先日、「藤沢の子どもたちのためにつながる会」に参加した際、ある保護者の方が、PTA室の鍵を借りるために職員室の先生に声を掛けづらいと言われました。こんなことで先生の時間をうばっていいのかと考えてしまうそうです。保護者の方々は私たちが想像する以上に、距離を感じているのかなと思うとショックでした。保護者と交流の機会を増やす必要性を強く感じます。

中岡副会長) 別室登校の時は、ひとりで自習だけするような事をさせてはいけない。必ず教職員が生徒と関わる時間を持つよう指示している。実際、1時間が精一杯なところを理解してもらいたい。個別の環境を整えるほど、登校の機会を遠ざけてしまうのも悩ましいところ。

大井会長) 一番は職場体験だと思う。私のところでなら、車関係ならいつでもウエルカム。車をいじらせる、車を洗う等。

荒船委員) 自分の過去のこと・・・

スポーツに垣根はない。人と関わることが大切。学校としては部活動が困りもの。御中になく卓球・バドが地域のサークルにあればと思う。クラブチーム化ならばお金がかかってしまう。

角田委員) PC室は、もとは図書館だった。今の図書館は、部屋の構造に問題があるので、また元に戻した方がいい。このままでは、クラスの生徒が全員入れないので図書館教育をすすめるのが難しい。

鈴野委員) コミュニティスクールがまだ何か不明瞭で、意見を言いづらい。

大井会長) みんなそう。みんなわからないから、みんなで考える会。いろいろな講師を呼んでもいいが、まずはみんなで考える。今年は御中だけだが、来年以降は御小も・・・徐々に増えるから連携も取りやすい。

須藤委員) 昨年度からコミスクに関わっているが、まずは学校で抱えている問題を確認することが良い。学校以外で人と関わる機会を増やせると良い。

【議題3】その他

・日程の確認

次回開催日程 : 2022年9月27日(火) 15:00～

会 場 : 御所見中学校 第一音楽室